

岡山県感染症週報 2015年 第35週 (8月24日～8月30日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2015年 第35週 (8/24～8/30) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第33週	2類感染症	結核	1名 (30代 男)
	5類感染症	ウイルス性肝炎	1名 (10代 女)
第34週	2類感染症	結核	1名 (80代 男)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1名 (O157:小学生 女)
	4類感染症	レジオネラ症	1名 (70代 男)
	5類感染症	アメーバ赤痢	1名 (30代 男)
第35週	2類感染症	結核	5名 (20代 女 1名、70代 女 1名、80代 男 2名、90代 男 1名)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	7名 (O157:幼児 男 1名・女 2名、小学生 男 1名、20代 男 1名、40代 女 1名、O121:40代 女 1名)

■定点把握感染症の発生状況

- 手足口病は、県全体で244名 (定点あたり4.15 → 4.52人) の報告があり、前週より増加しました。
- RSウイルス感染症は、県全体で21名 (定点あたり0.26 → 0.39人) の報告があり、前週より増加しました。
- 伝染性紅斑は、県全体で17名 (定点あたり0.37 → 0.31人) の報告があり、前週より減少しました。

【第36週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 4名 (O111:幼児 女 1名、O157:幼児 男 1名・女 1名、小学生 女 1名) の発生がありました。(8月31日～9月1日)

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第34週に1名、第35週に7名の報告があり、岡山県の2015年第35週(～8/30)までの累計報告数が、42名となりました。岡山県は、8月6日「**腸管出血性大腸菌感染症注意報**」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。詳しくは、「**注目感染症**」及び岡山県感染症情報センターホームページ『**腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!**』をご覧ください。
2. **手足口病**は、県全体で244名 (定点あたり4.15 → 4.52人) の報告がありました。第32週、第33週と減少しましたが、第34週から2週連続で増加しています。過去10年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、倉敷市(6.55人)、岡山市(5.86人)、備北地域及び美作地域(3.50人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、岡山市・倉敷市・備北地域では、ひきつづき発生レベル3となっています。この感染症は、症状がおさまっても、2～4週間の長期間にわたり、便の中にウイルスが排出されることもあります。うがいや手洗い、手指の消毒を励行するとともに、おむつや便の取り扱い時には使い捨てマスクやゴム手袋をするなど、感染予防に努めましょう。
3. **RSウイルス感染症**は、県全体で21名 (定点あたり0.26 → 0.39人) の報告があり、前週より増加しました。患者は少数ですが、定点あたり報告数は4週連続で増加しており、過去10年間の同時期と比較して最も多くなっています。この感染症は、大人は軽い風邪のような症状で軽快しますが、乳幼児が感染すると重症化する恐れがあります。例年、秋から冬にかけて多くの患者が報告されるため、今後の県内の発生状況に注意してください。また、うがいや手洗いを行うなど感染予防に努めましょう。
4. **伝染性紅斑**は、県全体で17名 (定点あたり0.37 → 0.31人) の報告がありました。前週よりわずかに減少しましたものの、過去10年間の同時期と比較して最も多くなっています。岡山市、美作地域、倉敷市で患者の発生が報告されており、特に岡山市で発生が多くなっています。この感染症は、両頬がりんごのように赤くなることから、「りんご病」とも呼ばれています。頬に発しんが出現する7～10日前に、微熱や咳などの風邪の様な症状がみられることがあり、この時期にウイルスの排出量が最も多くなります。ウイルス排出期には特徴的な症状を示さないため、効果的な二次感染予防は困難です。しかし、妊娠中(特に妊娠初期)に感染した場合、胎児異常(胎児水腫)や流産の危険があるため、妊娠中の方は伝染性紅斑が周囲で流行している時、風邪の症状がある人に出るだけ近づかないよう注意が必要です。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	▲	★	RSウイルス感染症	▲	★★★
咽頭結膜熱	▲	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▲	★★
感染性胃腸炎	▲	★	水痘	▲	★
手足口病	▲	★★★★★	伝染性紅斑	▲	★★★★★
突発性発疹	▲	★	百日咳	▼	
ヘルパンギーナ	▲	★★	流行性耳下腺炎	▲	★
急性出血性結膜炎	▲		流行性角結膜炎	▲	★★
細菌性髄膜炎	▲		無菌性髄膜炎	▲	★
マイコプラズマ肺炎	▲		クラミジア肺炎	▲	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	▲	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			▲

【記号の説明】 前週からの推移： ▼ : 2倍以上の減少 ▲ : 1.1~2倍未満の減少 ▲ : 1.1未満の増減

▲ : 1.1~2倍未満の増加 ▲ : 2倍以上の増加

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

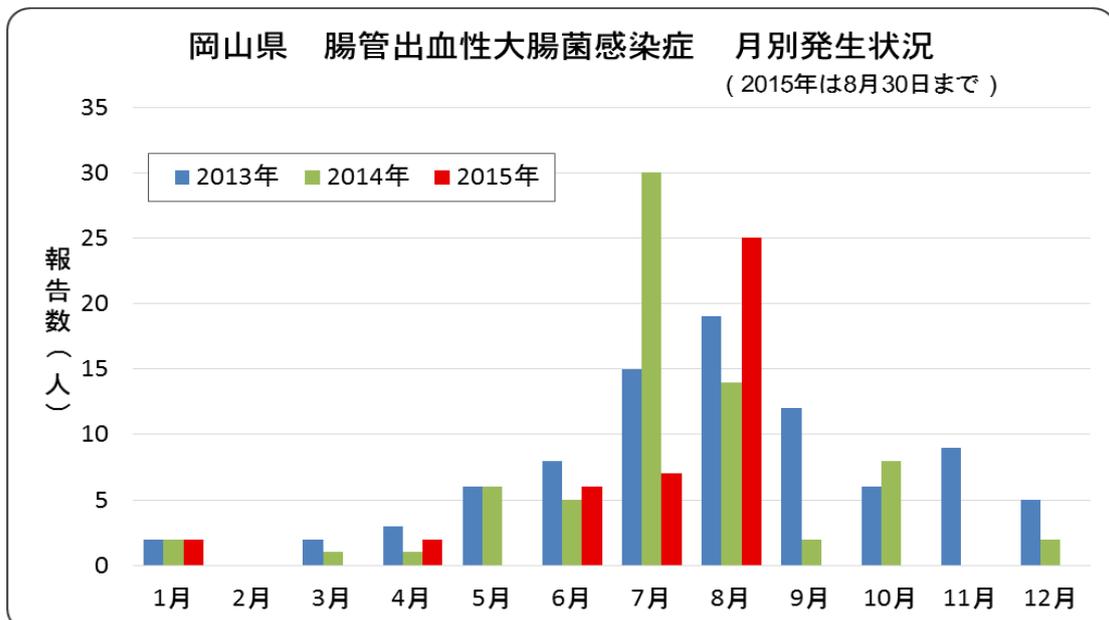
空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

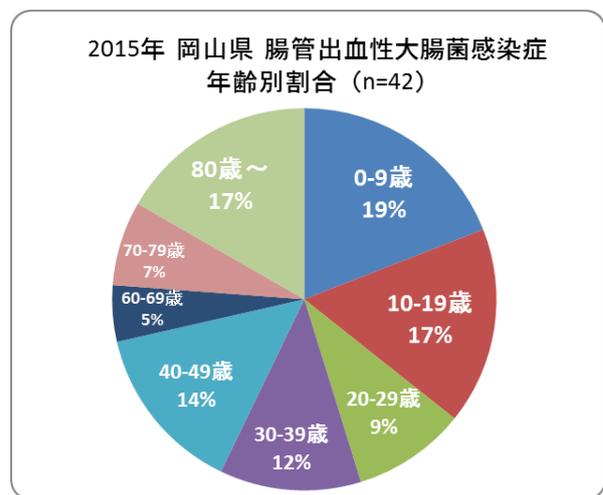
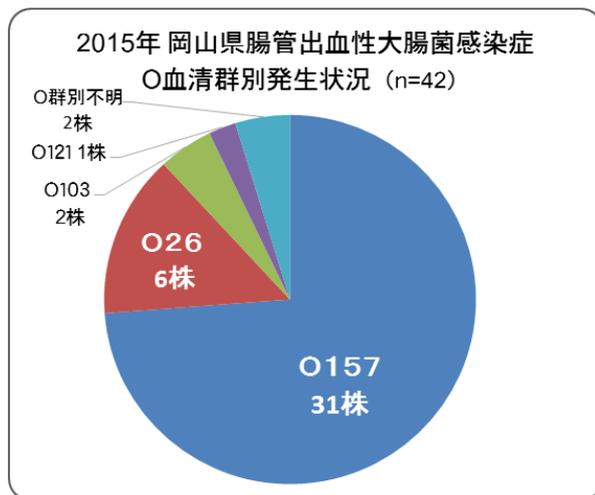
今週の注目感染症 腸管出血性大腸菌感染症

【岡山県の腸管出血性大腸菌感染症発生状況】

岡山県では、第34週に1名、第35週に7名（うちHUS発症1名）の報告があり、2015年8月30日までの累計報告数は42名となりました。第36週、さらに4名の発生報告があり、8月から患者報告数が大きく増加しています。

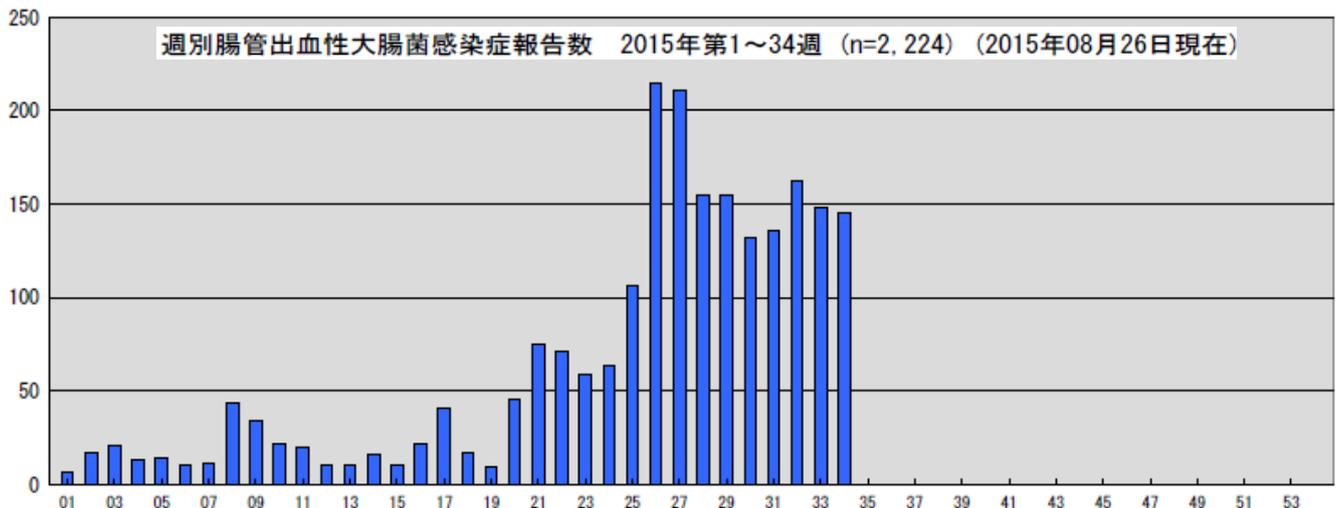
2015年に検出された菌のO血清群は、O157 31株、O26 6株、O103及びO群別不明 各2株、O121 1株で、O157の発生が多くなっています。年齢別割合は、0-9歳 19%、10-19歳及び80歳以上 17%、40-49歳 14%の順で高くなっています。





この感染症は、季節に関係なく年間を通して発生しますが、例年、夏季に患者の発生が最も多くなっており、しばらくは注意が必要です。手洗いなどを徹底するとともに食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉、特にハンバーグなどは中心部まで火を通すなど、ひきつづき通常の食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。

【全国の腸管出血性大腸菌感染症発生状況】



EHECの速報グラフ (PDF) 2015年第34週より (国立感染症研究所)

全国の2015年第34週までの累計報告数は、2,224名でした。週別報告数を見ると、第20週から増加しはじめ、第26～27週は集団発生の影響で一時的に増加がみられました。また最近では、島根県の高校の寮において、O157による集団感染が報告されています。重度の合併症である溶血性尿毒症症候群 (HUS) の発症は、第33週までに累計45例 (有症者2,039例中) が報告されています。

[IDWR速報データ 2015年第34週 \(国立感染症研究所\)](#)

【主な感染経路】

O157をはじめとするペロ毒素産生性の腸管出血性大腸菌で汚染された食物などを、摂取することによって感染します。また、感染者の便には腸管出血性大腸菌が排出されるため、人から人への二次感染も起こります。

【症状】

多くの場合、3～5日の潜伏期において、軽度の発熱とともに、激しい腹痛、水様性下痢、血便などの症状が出ます。抵抗力の弱い子供や高齢者などでは、重症化しやすいので注意が必要です。重症化すると、溶血性尿毒症症候群 (HUS) や脳症などの合併症をおこし、時には死亡することもあります。

【予防】

汚染食品からの感染が主体であることから、食品を十分加熱する、調理後の食品は速やかに食べきるなどの注意が必要です。特に、生肉または加熱不十分な食肉を食べないようにすることが重要です。人から人への二次感染については、手洗いの徹底等により、感染を予防することができます。特に、保育施設や老人福祉施設における集団発生が例年多いため、オムツや便の処理、手洗いなどに注意しましょう。

[国立感染症研究所ホームページ](#) [腸管出血性大腸菌感染症とは](#)
[腸管出血性大腸菌 Q&A \(厚生労働省\)](#)

保健所別報告患者数（定点把握）2015年 35週

（2015/08/24～2015/08/30）

2015年9月3日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	1	0.01	-	-	-	-	-	-	1	0.08	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	21	0.39	6	0.43	5	0.45	-	-	8	1.14	-	-	-	-	2	0.33
咽頭結膜熱	15	0.28	11	0.79	1	0.09	-	-	2	0.29	-	-	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	30	0.56	11	0.79	12	1.09	3	0.30	3	0.43	-	-	-	-	1	0.17
感染性胃腸炎	239	4.43	46	3.29	43	3.91	63	6.30	13	1.86	27	6.75	9	4.50	38	6.33
水痘	12	0.22	10	0.71	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
手足口病	244	4.52	82	5.86	72	6.55	31	3.10	23	3.29	14	3.50	1	0.50	21	3.50
伝染性紅斑	17	0.31	13	0.93	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0.50
突発性発疹	26	0.48	15	1.07	6	0.55	3	0.30	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	53	0.98	19	1.36	15	1.36	5	0.50	5	0.71	3	0.75	1	0.50	5	0.83
流行性耳下腺炎	40	0.74	10	0.71	2	0.18	1	0.10	2	0.29	1	0.25	1	0.50	23	3.83
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	14	1.17	3	0.60	4	1.00	7	7.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数（発生レベル設定疾患）2015年 35週

（2015/08/24～2015/08/30）

2015年9月3日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	1	0.01	-	-	-	-	-	-	1	0.08	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	15	0.28	11	0.79	1	0.09	-	-	2	0.29	-	-	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	30	0.56	11	0.79	12	1.09	3	0.30	3	0.43	-	-	-	-	1	0.17
感染性胃腸炎	239	4.43	46	3.29	43	3.91	63	6.30	13	1.86	27	6.75	9	4.50	38	6.33
水痘	12	0.22	10	0.71	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
手足口病	244	4.52	82	5.86	72	6.55	31	3.10	23	3.29	14	3.50	1	0.50	21	3.50
伝染性紅斑	17	0.31	13	0.93	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0.50
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	53	0.98	19	1.36	15	1.36	5	0.50	5	0.71	3	0.75	1	0.50	5	0.83
流行性耳下腺炎	40	0.74	10	0.71	2	0.18	1	0.10	2	0.29	1	0.25	1	0.50	23	3.83
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	14	1.17	3	0.60	4	1.00	7	7.00	-	-	-	-	-	-	-	-

（-：0 or 0.00） （空白：定点なし）

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2015年 第35週 2015/08/24～2015/08/30)

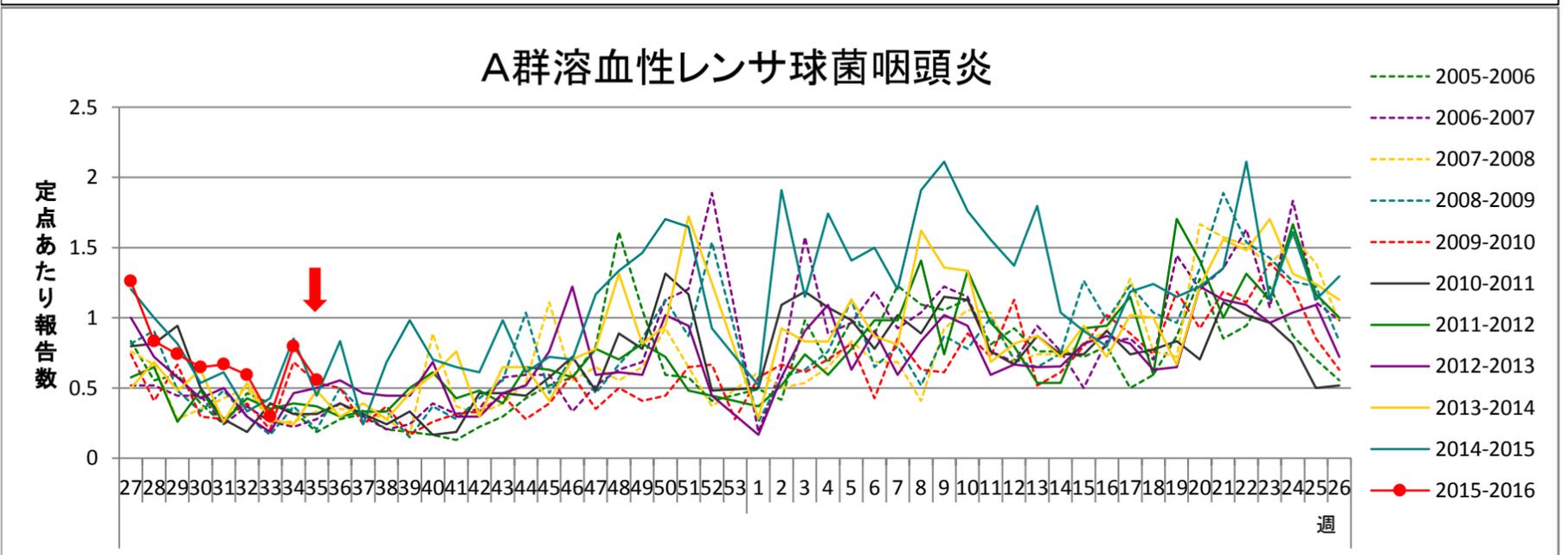
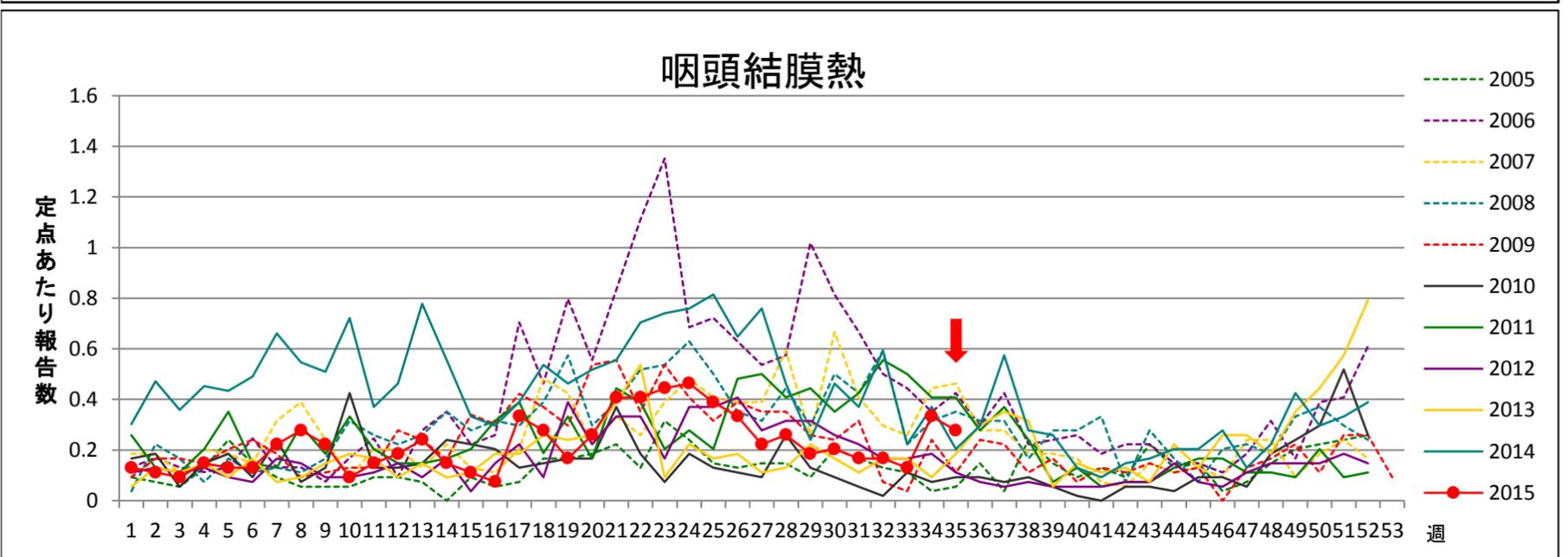
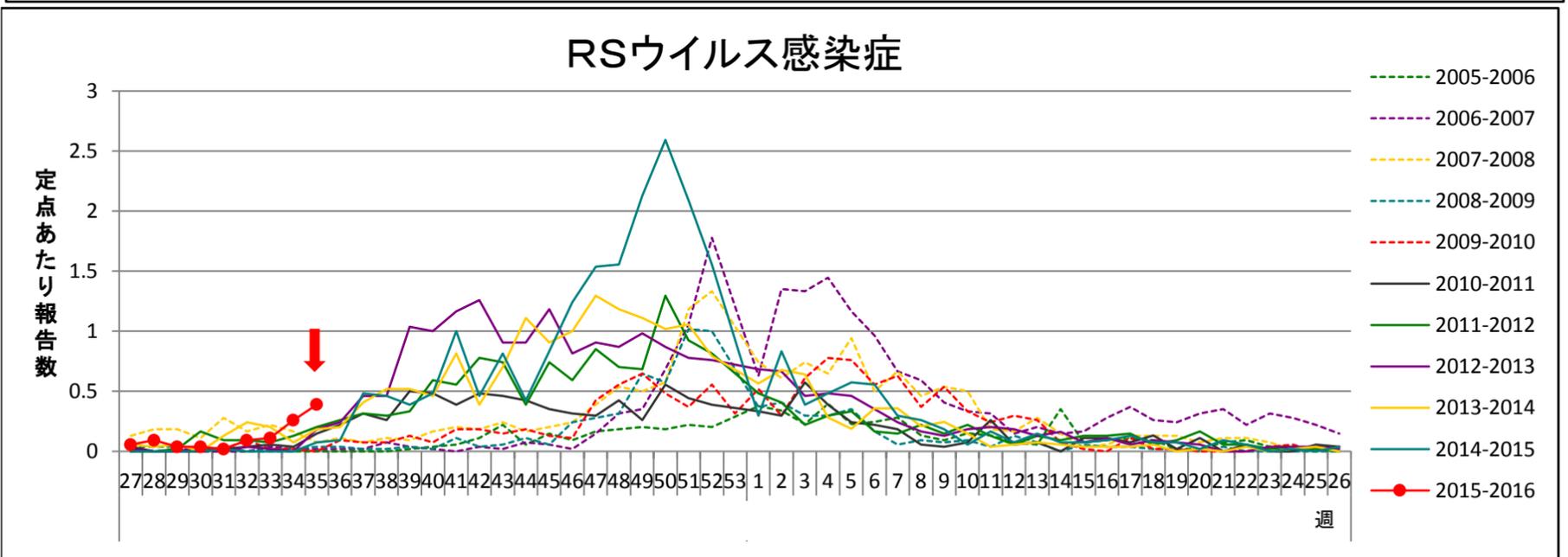
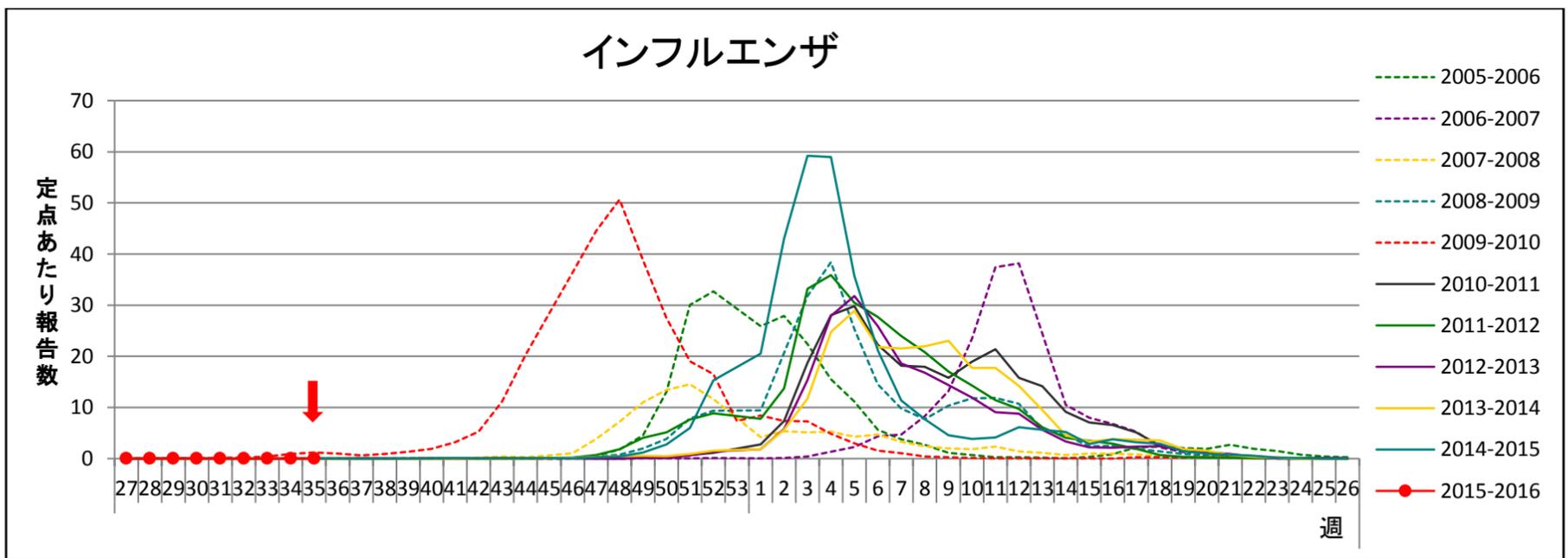
疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	21	1	8	9	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	15	-	1	1	2	3	1	2	1	1	-	1	1	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	30	-	-	2	1	4	4	3	4	1	3	1	3	1	3
感染性胃腸炎	239	1	21	29	32	24	13	15	15	5	4	6	24	6	44
水痘	12	-	2	-	2	1	4	1	-	1	-	1	-	-	
手足口病	244	1	27	115	42	24	10	10	3	4	2	2	3	-	1
伝染性紅斑	17	-	1	-	4	1	3	5	2	-	-	1	-	-	
突発性発疹	26	-	10	12	3	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	53	-	2	21	8	10	3	1	3	1	1	-	3	-	-
流行性耳下腺炎	40	-	-	5	4	5	4	3	3	4	4	2	4	1	1

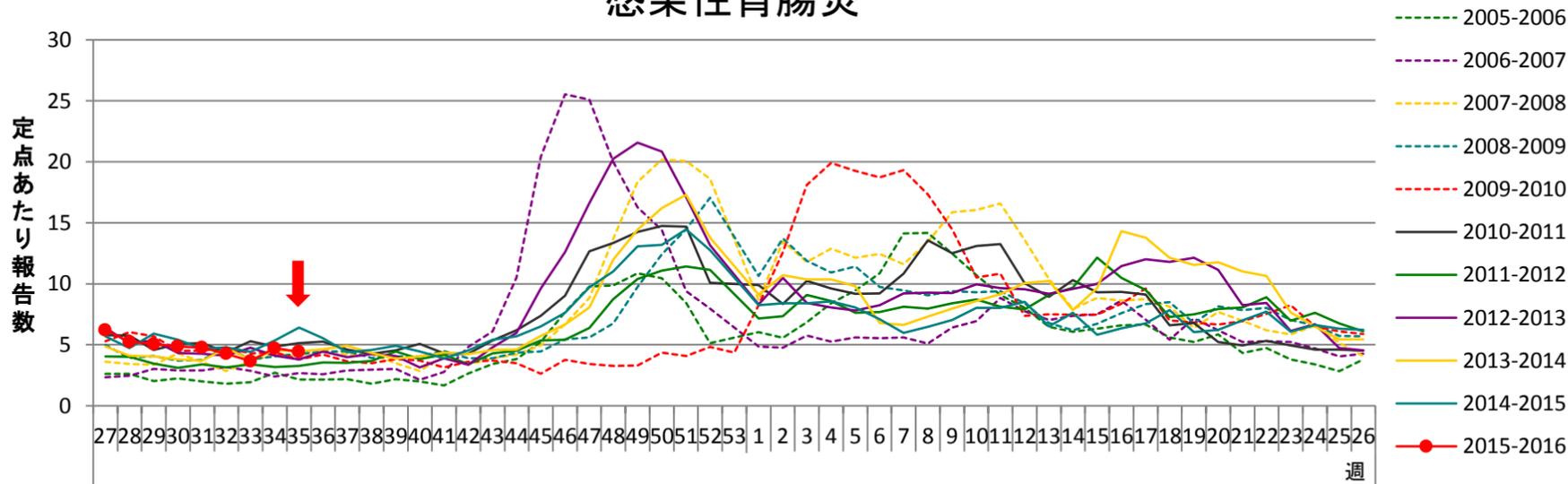
疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	14	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	2	4	3	1	-	1

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

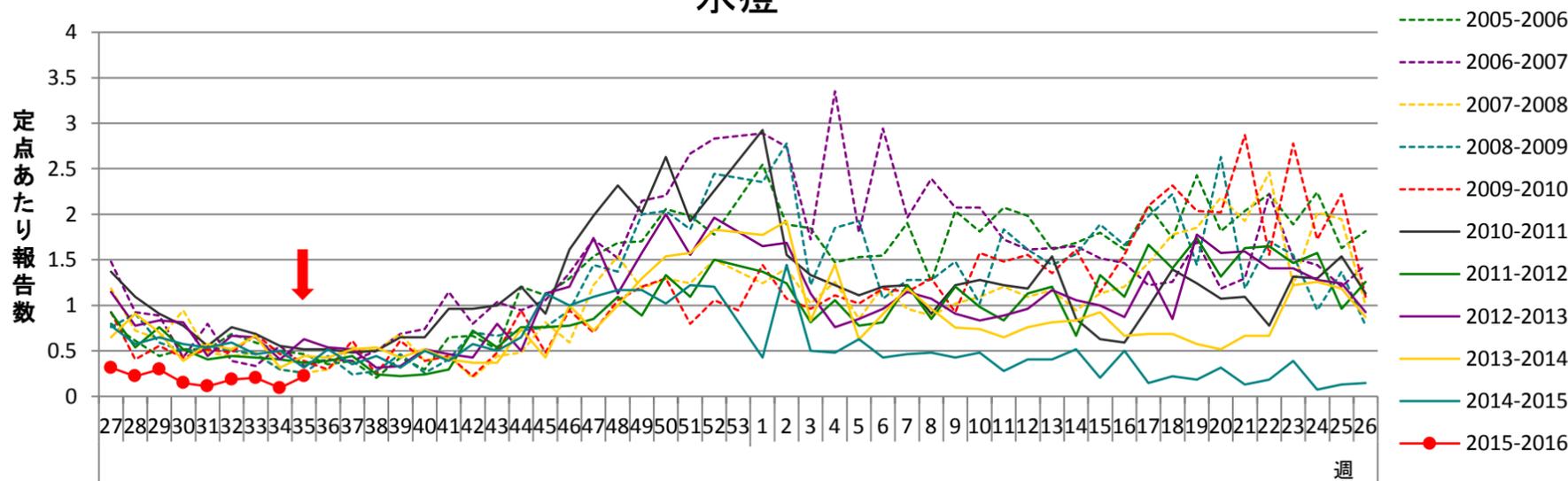
(- : 0)



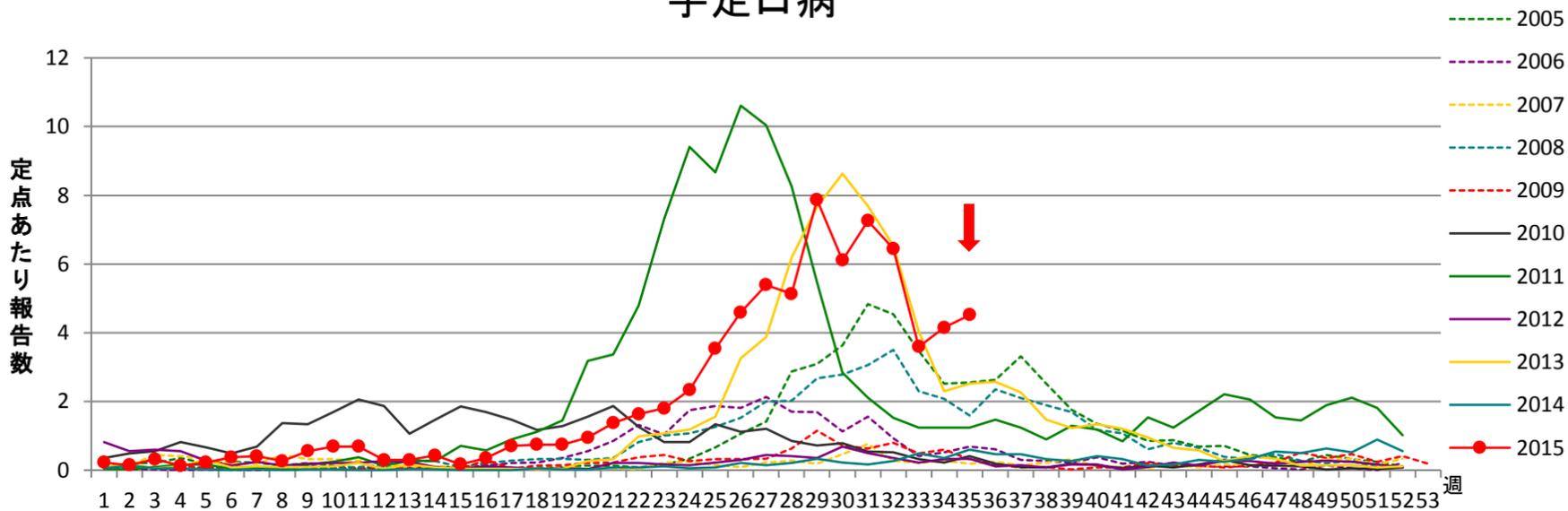
感染性胃腸炎



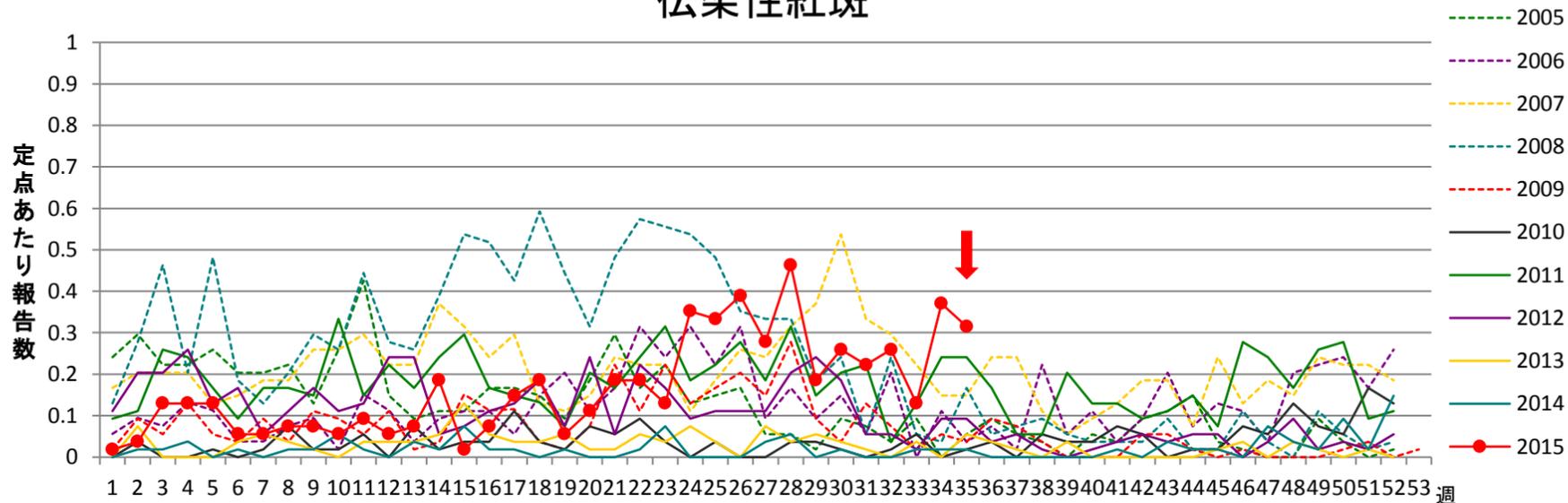
水痘



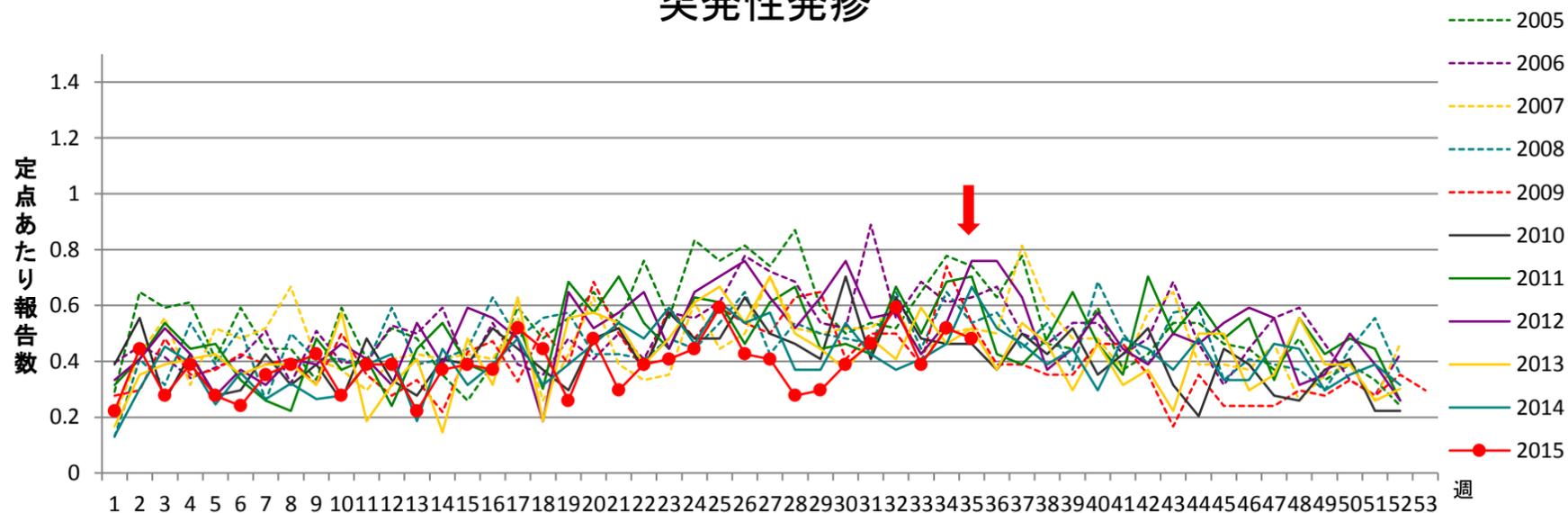
手足口病



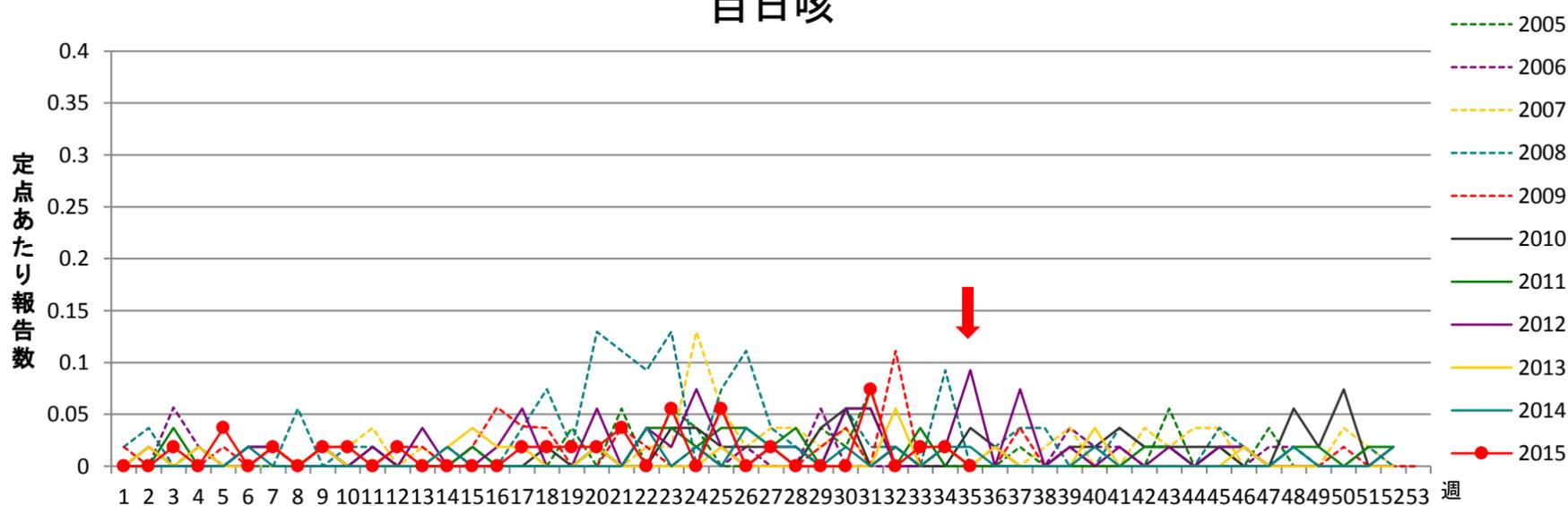
伝染性紅斑



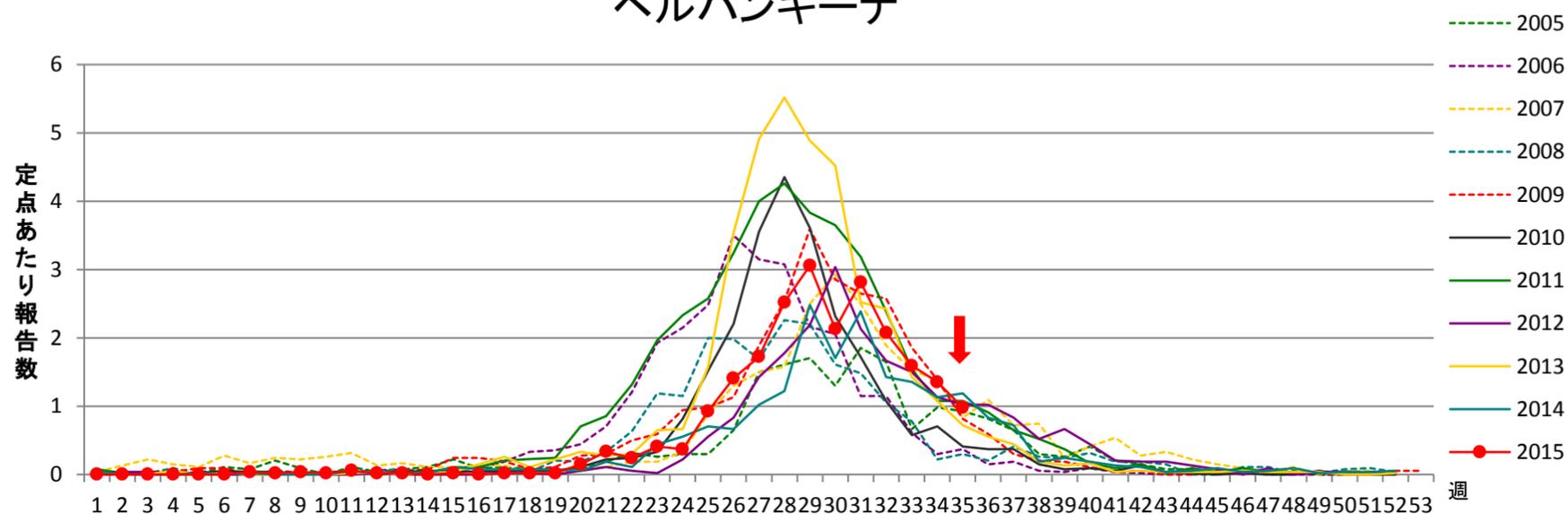
突発性発疹



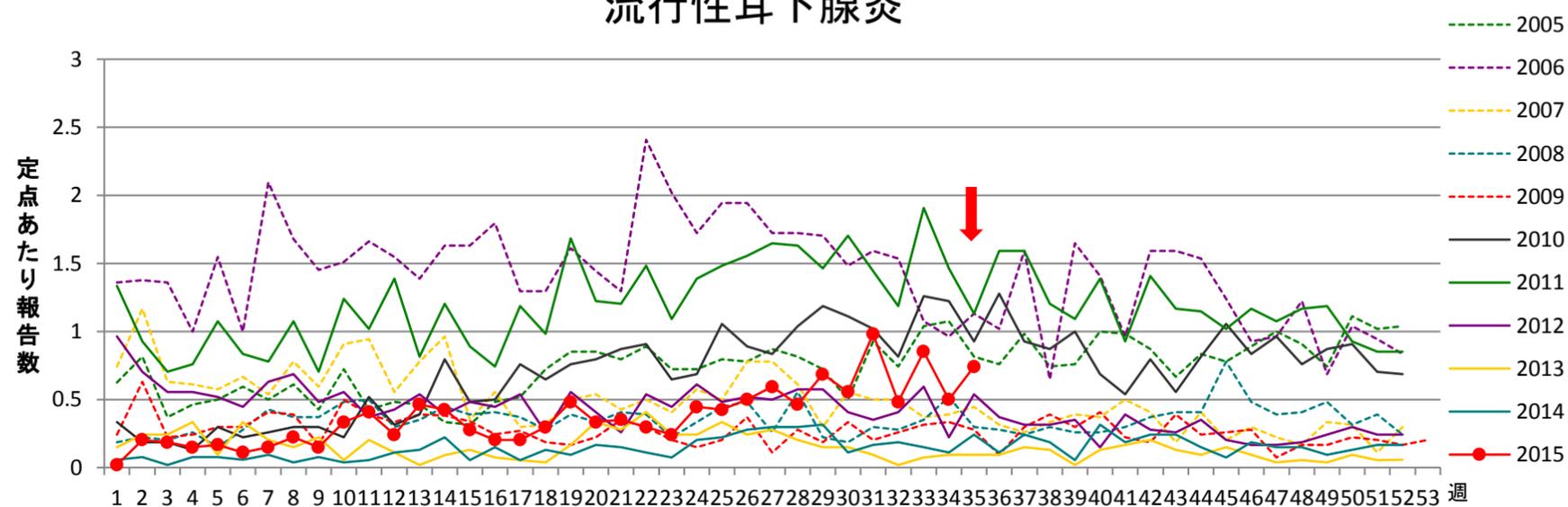
百日咳



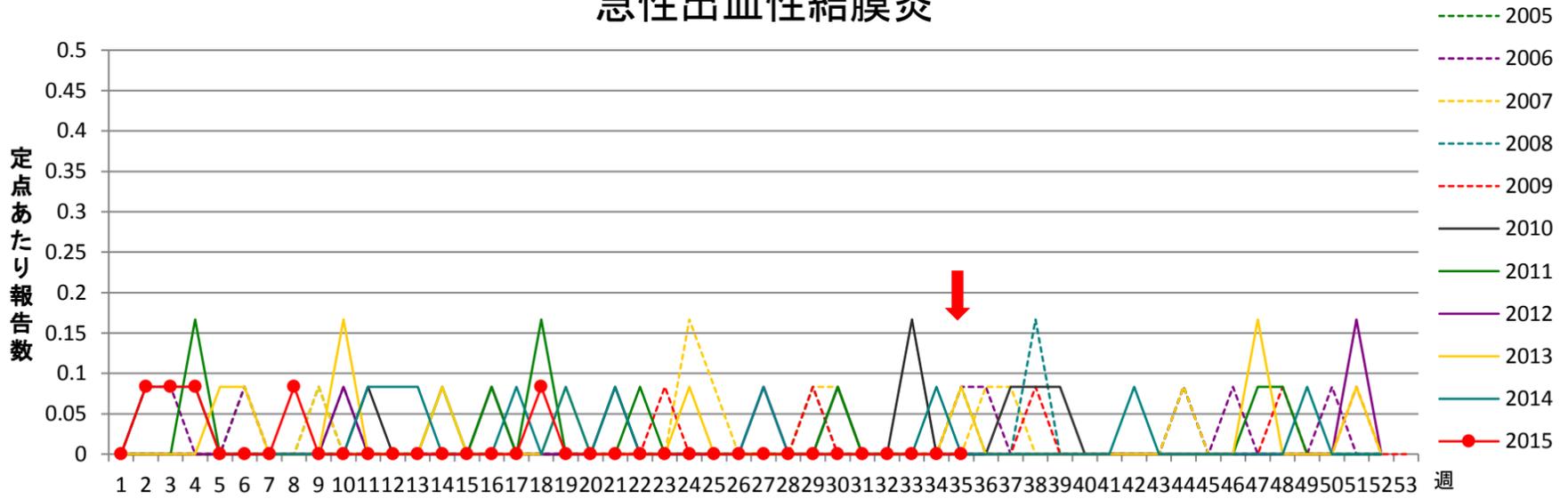
ヘルパンギーナ



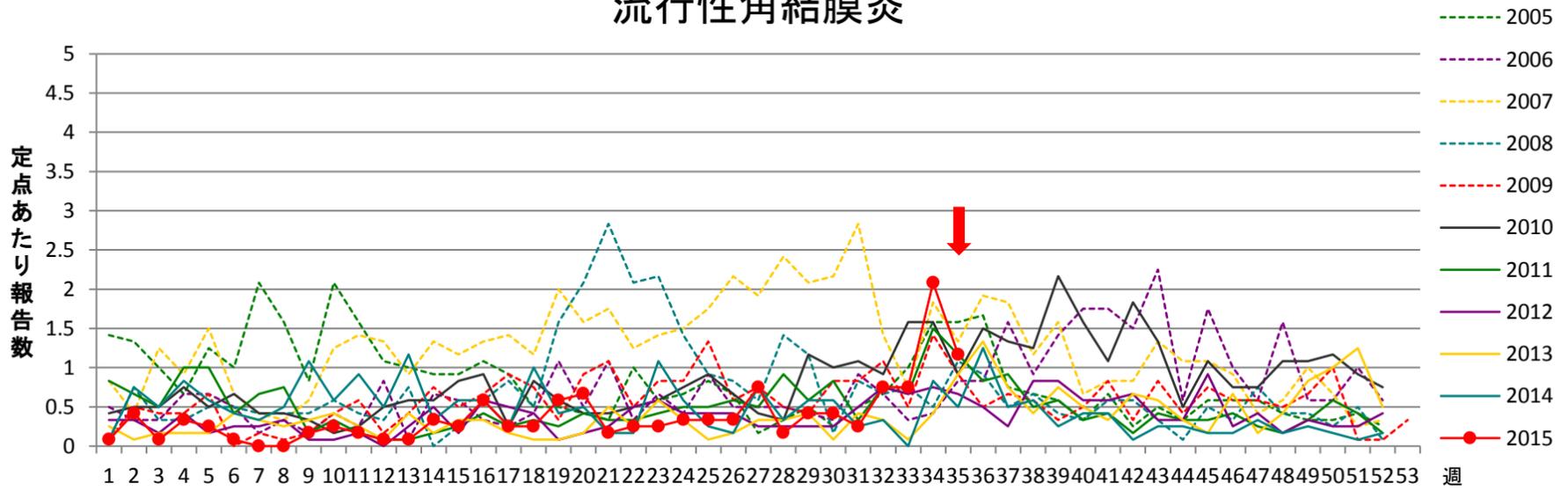
流行性耳下腺炎



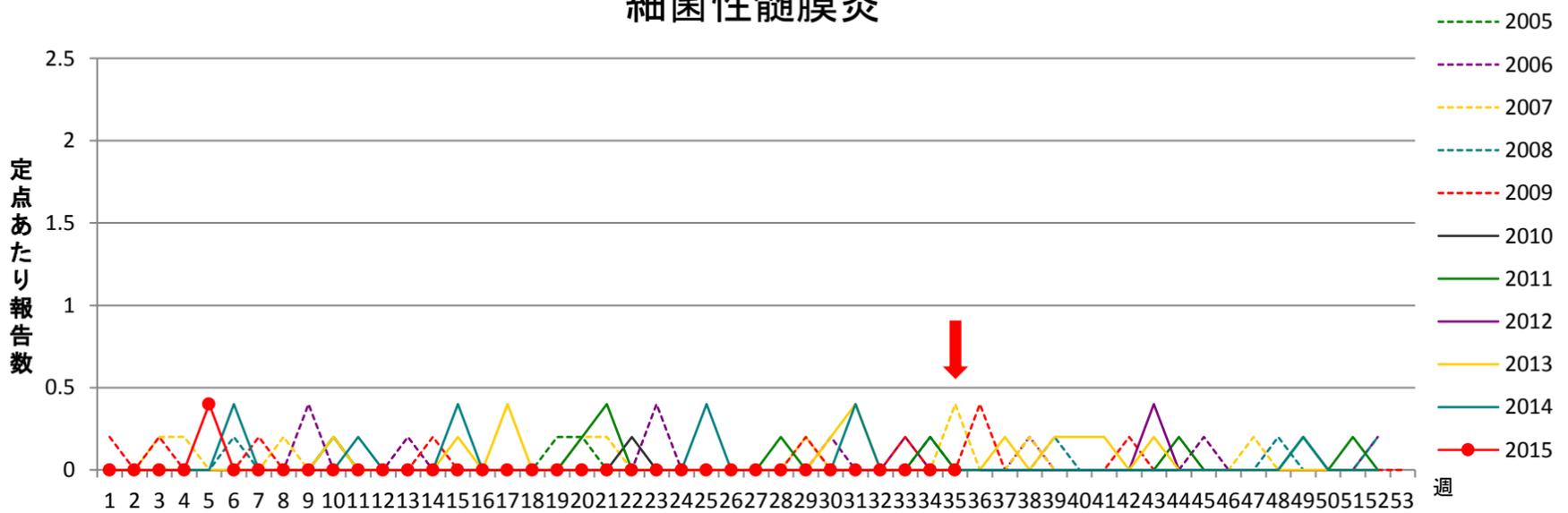
急性出血性結膜炎



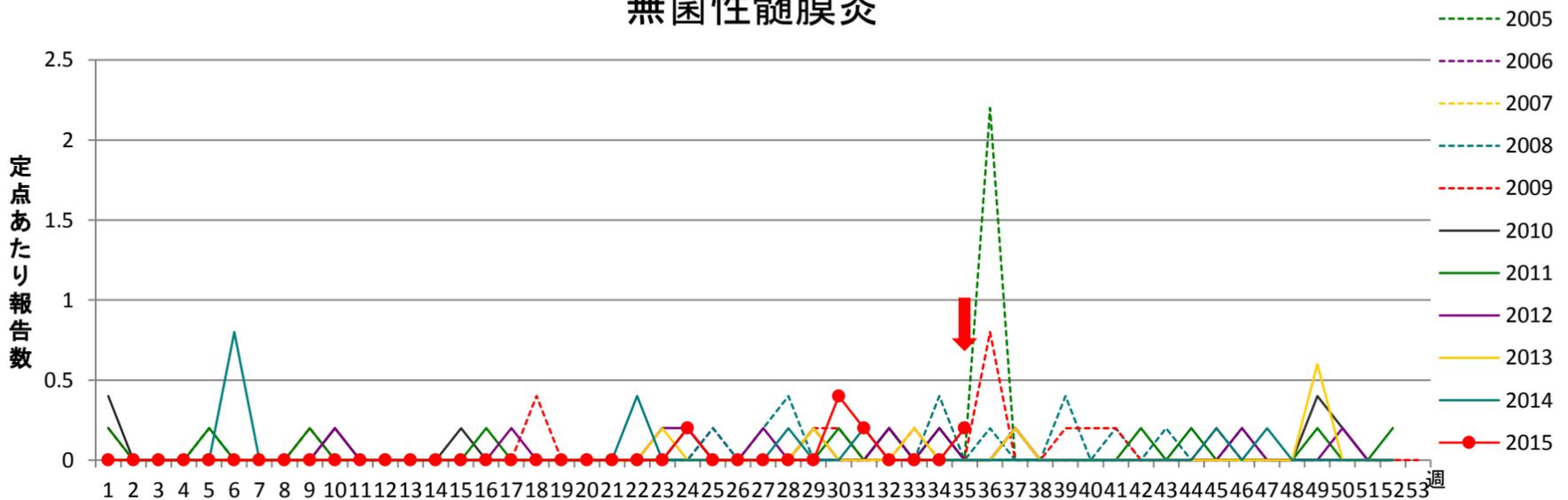
流行性角結膜炎



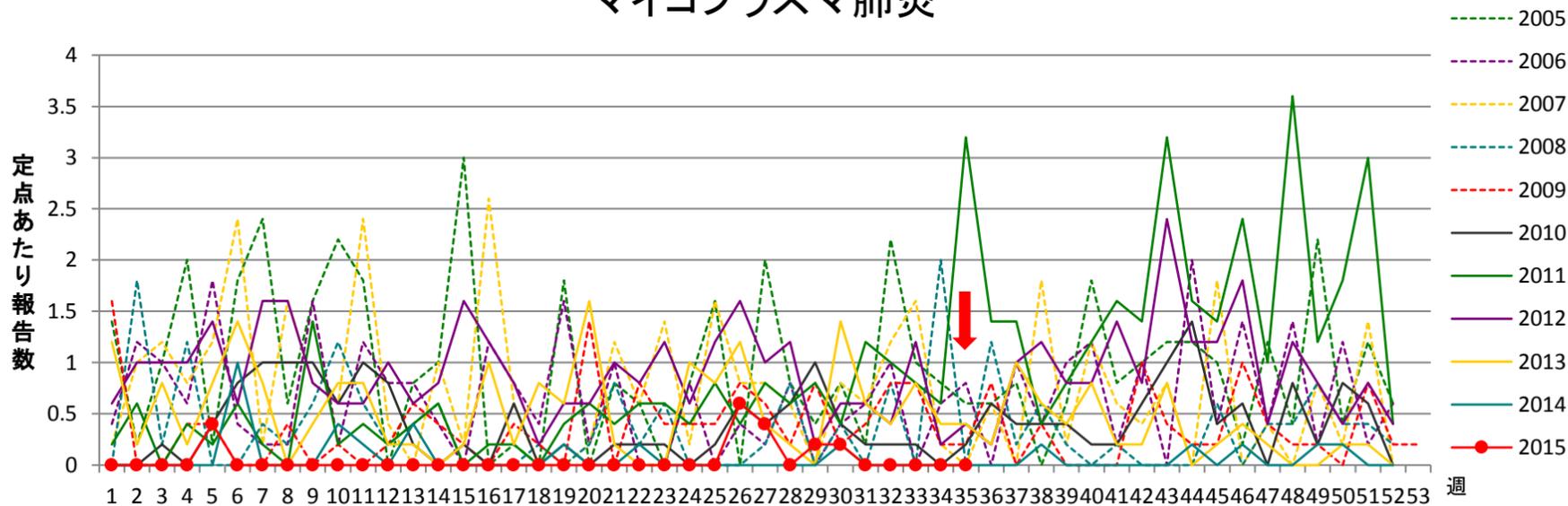
細菌性髄膜炎



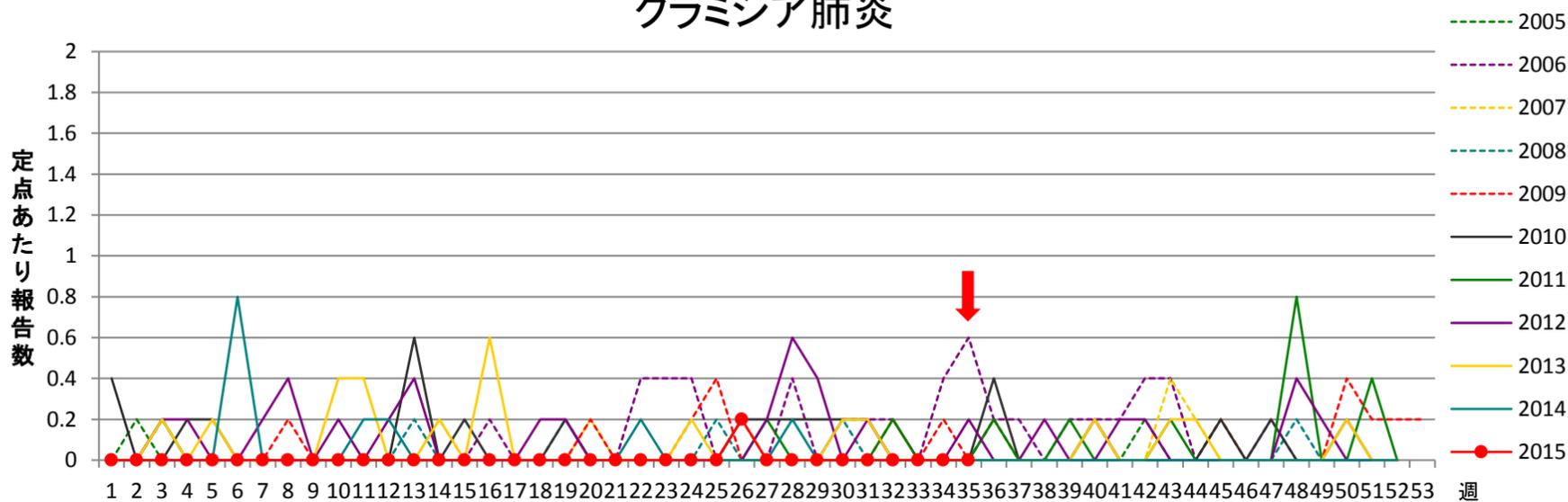
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

